

I - 1 計画地の特性

(2) 歴史的経緯

計画地は、春日大社に隣接した(一部境内地含む)位置にあり、公会堂整備(明治中期)に伴い整備された庭園と、昭和末期の新公会堂への建替整備に伴い拡張整備された新庭園が一体となっている。

各時期の整備において継承されたものと変更されたものがあることから、これらを整理し現況評価の一つとする。

年次	内容
明治13年 (1880)	太政官布達により奈良公園開設(本計画地は含まない。)
明治21年 (1888)	第六十八国立銀行・第三十四国立銀行の両奈良支店の集会所として奈良倶楽部(明治36年奈良県公会堂の前身)を旧四恩院跡(本計画地南端に位置)に建設
明治22年 (1889)	奈良倶楽部(旧公会堂2号館・南側建物)建設される。
明治33年 (1900)	奈良倶楽部を買収し、公会堂とする。
明治36年 (1903)	旧公会堂1号館(北側建物)完成。以来、約80年間広く県民の会議室、集会所、ホールとして利用される。
明治43年 (1910)	春日野運動場を整備
大正11年 (1922)	奈良公園を名勝に指定
昭和62年 (1987)	奈良県新公会堂を整備
昭和63年 (1988)	なら・シルクロード博の開催
平成2年 (1990)	春日野園地(春日野運動場跡)および浮雲園地・三社池(春日野水泳場および児童遊戯場跡)、奈良公園館(春日野庭球場跡)を再整備
平成27年 (2015)	・別館(旧公園管理事務所他)及び連絡通路を整備 ・「奈良春日野国際フォーラム 麓」に改称



図：江戸中期絵図上の計画地



航空写真：1979年9月11日



航空写真：2008年5月15日

I - 1 計画地の特性

1)旧公会堂の庭園 (1955~1985年頃)

基本構成	<ul style="list-style-type: none"> ・芝地とひょうたん池を中心に、建築と樹林に囲まれている。 ・主要建築物と池・芝地が一体となっている。
庭園利用	<p>施設は県民の会議室、集会所、ホールとしての利用のほか、奈良公園の迎賓施設として利用されていた。庭園利用状況は不明。</p>
眺望	<p>ひょうたん池西側からの若草山への眺望が良いほか、旧公会堂2号館(南側建物)階上からの四方への眺望も魅力。</p>
植栽	<ul style="list-style-type: none"> ・芝地と仕立てのマツを主体とした植栽。 ・シカが出入りできることから、低木・草本はほぼ無かった。
園路	<p>・建築周りの砂利敷きのみで、庭園に園路はない。</p>
背景部	<p>・背景にはマツやモミの針葉樹が多く見られる。</p>



写真:1983年



I - 1 計画地の特性

①旧公会堂から若草山への眺望

旧公会堂2号館(元奈良倶楽部)は木造3階建ての建築物で、上部の楼から南大門から大仏殿、若草山、御蓋山への良好な眺望が臨めた。

2号館建築は南西寄りに配置されており、特に若草山への眺望に最も適した配置であった。

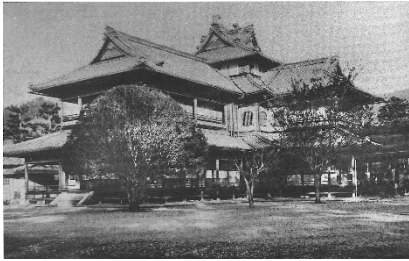


写真:旧公会堂2号館(元奈良倶楽部)
大正3年撮影 出典イ



写真:「若草山から西方の旧奈良県公会堂をのぞむ」明治41年撮影 出典ロ
※原画では右奥遠方に国立博物館、五重塔が見える。



写真:南西位置から昭和50年頃撮影 出典ニ

【奈良県倶楽部】

奈良公園春日野大運動場の一方にありて南面し、公会堂と相連なり、閑静の一境を占む、明治二十三年の建築にして楼上に東大寺大伽藍東西に諸名山を望み、庭上砂浄くして、県内の内外大賓を迎うるや……

出典「大和名勝写真帖」奈良県発行

【倶楽部】

奈良倶楽部は、県有建物にして結構優麗春日、若草山を一眸に集め風景頗みる佳なり

出典「奈良名勝写真帖」大正4年発行

イ:「目で見える大和路」藤井辰三

ロ:目で見える奈良市の100年(明治～戦後)

ハ:「奈良公園の古写真募集」応募写真

ニ:奈良公園事務所所蔵

②旧公会堂の庭園景観

旧公会堂の庭園の主要素は樹林に囲まれた芝地と池、マツ(仕立)であり、主要素は現在の庭園に継承されている。



写真:旧公会堂庭園での記念撮影 昭和35年撮影 出典ハ



写真:現在の庭園 上記と近似位置から撮影

I - 1 計画地の特性

3)国際フォーラム 別館整備後の庭園 (2012年～現在)

別館整備により、本館と別館を結ぶ別館連絡道と北側に3箇所入口が整備された。別館連絡道が屋根付き廻廊であったため、従来の管理動線が分断されたため、トイレ東側に新たな管理道が整備された。



写真:別館連絡道の外観 本館北側から撮影



写真:別館連絡道 北側入口付近から撮影

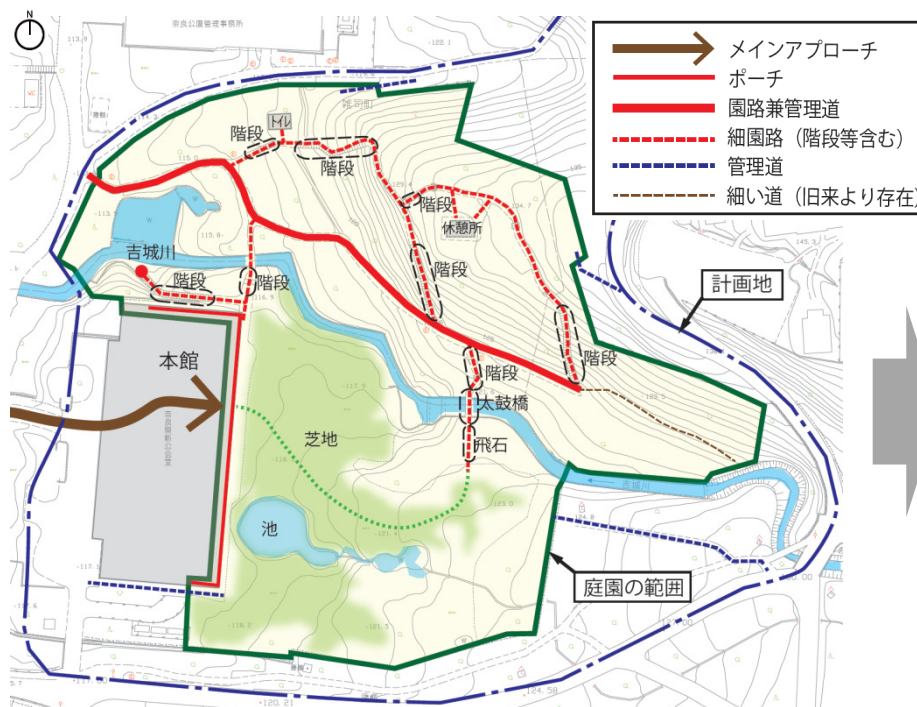


図:別館整備前 2008年測量図

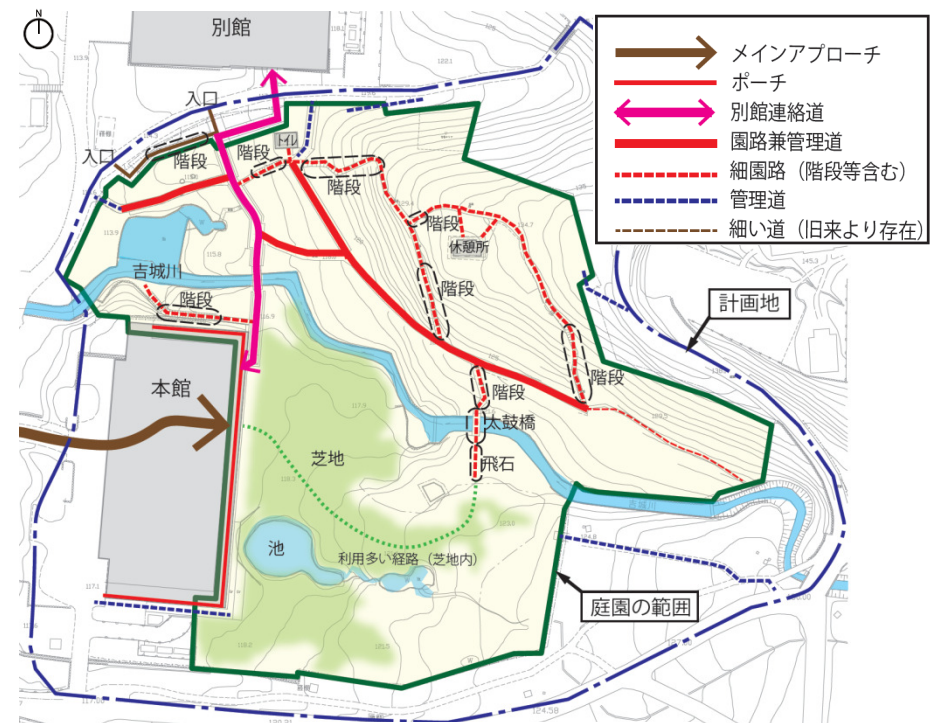


図:別館整備後 2015年補修測量図

I - 1 計画地の特性

4)まとめ:歴史的経緯によるエリア特性

歴史的経緯によるエリア特性

本庭園は、旧公会堂庭園を継承した部分と新公会堂建設時に新設した部分に大別される。基本的な構成要素が異なるため、それぞれに魅力があり課題が見られる。

本庭園の最大の魅力の一つである眺望を改善・向上させるとともに、庭園のより良い利用を促進するためには、二つを併せて庭園全体として捉える必要がある。

	旧公会堂庭園継承部	新公会堂庭園新設部
整備期	旧公会堂と一体に整備。	新公会堂建設に伴い整備。
植栽	芝地と仕立てのマツを主体とした植栽を継承。	低木を含めた花木を主体にした植栽。 吉城川沿いはモミジが主。
園路	基本的に園路は無い。	散策のための園路が巡らされている。 園路の多くは、幅員は異なるが旧来からの道に沿って配置されている。
眺望	本館前から若草山への眺望が大きな魅力。 但し新公会堂整備により眺望点が北東尾根に近づき、尾根付近の大高木が支障となりやすくなった。また、近景として吉城川が意識されるようになった。	特筆するものではないが、休憩所付近から奈良盆地や本館大屋根が望める状況にある。
背景	北東尾根から若草山が背景となっている。	春日大社の社叢林や春日山が背景となっている。

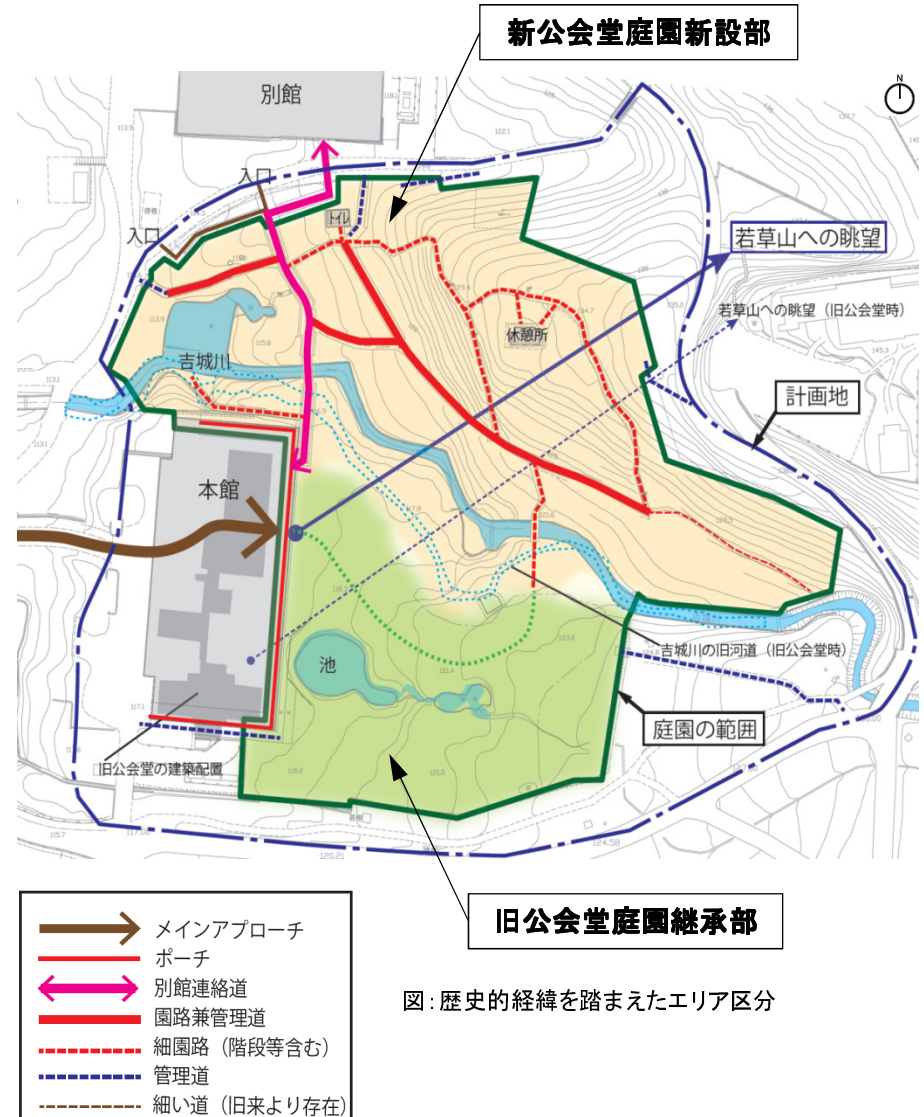


図:歴史的経緯を踏まえたエリア区分